

道教委では、3年度以降も、英検準1級以上(C E F R B 2)等を取得している高校の英語担当教員の割合を75%以上、高校卒業段階で英検準2級以上(C E F R A 2)または同等程度の力を有していると考えられる生徒の割合を50%以上とすることとしており、各学校においては、引き続きCAN-DOリストの学習到達目標を活用した授業やパフォーマンステストの実施など、生徒の英語力向上に向けた取組はもとより、英語担当教員の積極的な外部検定試験の受験を働きかけていきたい。

また、元年度の英語教育実施状況調査において、生徒の英語力を前年度から大きく向上させた高校の取組をまとめたリーフレットを作成し、全道に発信することとし、3年1月20日付事務連絡によって各道立高校等に送付するとともに、高校教育課ホームページに掲載した。各学校においては、英語教育の充実にも活用願う。

【各種事業等】

▼未来を切り拓く資質・能力を育む高校教育推進事業
▽アドバンスト学習キャンプ・探究活動キャンプ
本年度のアドバンスト学習キャンプは、3年1月6～7日、道内3会場において、教員による国語・数学・英語の講義、大学入試動向説明、国学院大学の田村学教授による講演を実施し、14校66人の生徒が参加した。

参加した生徒から、「普段、学校ではなかなか体験できない内容ばかりで、

生徒支援加配 見直しも検討

【特別な配慮を必要とする生徒への指導】

▼高校における特別支援教育支援員配置事業
3年度の支援員の配置校については、3年1月7日付教高第2491号通知「教育上特別な支援を必要としている生徒の状況および支援の状況の把握について」における調査に基づいて、各学校の状況を把握した上で決定する予定。

これまでも各学校から支援員の要望が多数あることと、また、3年度の入学者にかかる要望が複数校から見込まれることから、3年間にわたり支援員が配置された学校や国の生徒支援加配の配置校については、配置を見直すことも検討。

支援員による支援内容は、対象生徒への学習面および生活面等の直接的な支援のほか、校内研修の講師として、教職員の特別支援教育に対する理解啓発を促すことも含まれているため、配置校においては、学校全体で特別支援教育にかかる理解を深め、教員の指導力の向上および校内の指導体制の構築に努めていきたい。

▼高校段階における入院生徒に対する教育保障体制整備事業
本事業にかかるとリーフレットを2年12月15日付事務

とつためになつた「グループで学習すると集中力が高まったり、解答を導き出したりのことができた」「受験だけではなく、実生活にも役立つことが学べてよかった」などの感想が寄せられた。

探究活動キャンプは1月8日、北海道大学の岡田真弓准教授による講演と道経済産業局による説明のあと、各学校において「北海道の地域創生」をテーマとした探究活動を行うとともに、9日にオンラインによる発表を実施し、11校53人の生徒が参加した。

参加した生徒から、「観光業から探る北海道の地域創生は、住民と観光客の両方の視点で、メリット・デメリットを考えていく必要がある」「自分は人前で話すことを避けてきたし、経験する場もなかったもので、今回のキャンプはとても貴重な体験だった。今後も相手に伝えることが上達するよう努力したい」などの感想が寄せられた。

今後、アドバンスト学習キャンプと探究活動キャンプの成果等について、報告書や道教委ホームページなどで周知する予定。各学校においては、特に、探究活動キャンプの成果を自校の総合的な探究の時間の工夫改善に活用するよう願う。

▼学力テストおよび道立高校学習状況等調査の実施
学力テストの実施については、2年12月7日付教高第2203号で教育局に通知。例年どおり、2月中旬から3月に各学校で実施することとしている。

本テストは、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの一端として、学習成果や課題を把握し、その結果を教育課程や主体的・対話的で深い学びの視点から学習・指導方法の改善に生かすことを目的としていることから、道教委独自の学力テストを高校生のための学びの基礎診断の測定ツールとして活用する場合は、1年次および2年次に各1回実施することとしている点に留意いただきたい。

学習状況等調査については、例年どおり、1年生中等教育学校は4年次、全員を調査対象としているの2年実施分の集計表の教育局への提出は、3年4月12日を予定。

なお、元年度から、家庭学習時間にかかる項目において、友人同士で行って「友人同士で行って、成果を報告する」とも、成果報告会を実施する予定。

▼地域医療を支える人づくりプロジェクト事業
医療類型指定校については、平成28年度に本事業の実施要綱を改正し、指定校および協力校を毎年度募集することとしており、年度内に来年度の指定校および協力校を募集する予定。

高校生×ティカール講座については、本事業の指定校および協力校によって14管内すべてで実施済み。

令和3年度のメディアカル・キャンプ・セミナーは、8月9～12日の予定であるが、内容および実施形態については遠隔システムを活用や日程の短縮等を含め検討中。詳細については決まり次第、お知らせする。

度、最低1日)の確保や、基本的な感染症対策を徹底することを前提に、会場の収容人数や想定される出席者数など、各学校の実態を踏まえて適切に実施するようお願いする。

なお、実施に当たっては、つきに挙げる感染拡大防止のための措置や開催方式の工夫を講じていただきたい。

▽感染拡大防止の措置
風邪のような症状のある人には参加をしないよう徹底。参加者への手洗いや咳エチケットの推奨、可能な範囲でアルコール消毒薬の設置。小まめな換気。

▽開催方式の工夫例
参加人数を抑えること(在校生の参加の取り止め、保護者の参加人数を最小限とする、保護者を別会場とするなど)。会場のいすの間隔を空けて、参加者間のスペースを確保すること。式典の内容を精選し、人による参加をしないよう徹底。参加者への手洗いや咳エチケットの推奨、可能な範囲でアルコール消毒薬の設置。小まめな換気。

【道立高校教育アクションプラン】
各学校における本アクションプランの進捗状況について、元年度同様、3年度に実施する管内公立高校状況調査に併せて把握する予定。各学校においては、引き続き、本アクションプランの活用についてお願いする。

採用状況注視し進路指導

【進路指導】

▼3年3月公立高校卒業予定者の就職内定状況(11月末現在、道教委調査)
▽就職希望生徒数 6968人(前年10月末比910人減)
▽就職内定生徒数 4932人(同82人増)
▽就職未内定生徒数 2036人(同992人減)
▽就職内定率 70.8%(同9.2ポイント増) ※選考開始1ヵ月後と同条件の昨年10月末と比較

新型コロナウイルス感染症の影響で多くの企業の業績が落ち込み、採用動向が見通せない中、元年度と比較において現時点では単純に分析することはできないが、今後の就職活動に向けて、未内定者の多くが希望する事務やサービスなどの職種において求人数が

減っていることを踏まえ、生徒の就職内定状況が悪化しないよう、各学校においても採用状況を注視し、関係機関と緊密な連携を図るなどして、進路指導の充実にも努めていただきたい。

▼就職を希望する生徒への支援
新型コロナウイルス感染症の影響によって企業の採用動向が不透明となる中、高校生が希望する進路を実現するためには、学校や行政の様々な支援が必要である。

今後は、生徒一人ひとりの実態に応じた進路指導を行うとともに、ハローワークやジョブカフェ北海道が行う就職相談や就職説明会への積極的な参加を促していきたい。

また、キャリア・プランニング・スーパーバイザー

【学校評価】

外部アンケート等の実施のみをもって、学校関係者評価を実施したとみなすことは適当ではないため、各学校においては、学校の自己評価の結果に基づいた学校関係者評価を適切に実施

道通ビル 入居者募集

お問い合わせは
北海道通信ビル株式会社

札幌市中央区北五条西六丁目
電話 011-221-1311(六番)

貸事務所、貸店舗

第一、第二、第五道通ビル。
札幌駅より徒歩三分。道庁に近
冷暖房、立体駐車場。
地下に飲食店街があります。
三階以上貸事務所、一階貸店舗
委細面談。

http://dotsu-bldg.net